



発行日：平成 29 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 39 回川部会WGを開催しました！

6 月 30 日（金曜日）に第 39 回川部会WGが豊田市上郷交流館 会議室にて開催されました。今回の WG では、上郷柳川瀬排水機場の工事の進捗状況について愛知県豊田加茂農林水産事務所よりご説明いただき、事業における環境配慮対策について意見交換を行いました。

日 時：平成 29 年 6 月 30 日（金）13:00～16:00

会議場所：豊田市上郷交流館 会議室

参加者：21 名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1.本日の話し合いでわかったこと、決まったこと



■上郷柳川瀬排水機場の工事進捗状況について

上郷柳川瀬排水機場の工事進捗状況について、愛知県豊田加茂川農林水産事務所より工事平面図等をもとに説明をしていただきました。

昨年度に川部会WGから要望した配慮事項について、適切に対応されていることがわかりました。

- 昨年度までの工事の進捗として、古い排水機場を取り壊し、新たに整備する排水機場の土台となる基礎部分の盛土を実施した状況です。
- 現排水機場下流側を掘削し、魚の滞留場所を整備しています。
- 降雨等による濁水対策として、仮設沈砂池を整備しています。
- 今年度から来年度8月にかけて、基礎部の杭打ちと平地部を矢板で囲み、その中の土砂を掘削してコンクリートを流し込んで基礎のコンクリート構造体を建設する工程となっています
- 新しく建設するコンクリート構造体に漬かった高アルカリ水が直接承水溝へ流出するのを防ぐため、盛土部分を残置し、約1年の養生期間をもたせうえで吸水槽と承水溝を繋げる計画としています。



■現地視察

- 会議室での説明を受けた後、上郷柳川瀬排水機場工事現場に赴き、排水機場撤去後の盛土状況、降雨による濁水対策（沈砂池）など現在の工事実施状況について確認しました。

■今後の要望について

- 排水機場の事業完了後も遊水池とひょうたん池は魚が行き来できる環境とはならないため、これを改善するには遊水池樋門の管理者である豊田市との協議が必要となります。今後、豊田市の担当部門にWGへ参加していただき、一緒に討議することを要望していきます。



2.今後のスケジュールについて

第40回以降の日程を以下のとおりとします（内容は別途調整します）。

第40回：7月18日（火）、第41回：8月23日（水）、第42回：9月29日（金）、第43回：10月27日（金）

3.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶回答)

- ・濁水防止対策は矢作川沿岸水質保全対策協議会の指導を受けて実施しているものか。(内田)
 - ▶ そのとおりである。(豊田加茂農林事務所、以下「豊田加茂」)
 - ▶ 現地の濁水対策について、大局的には十分に配慮されている。沈砂池の中に竹粗朶が入っており、矢作川では最近濁水処理に竹粗朶を活用するケースが多くなっている。竹粗朶は万能ではないが、自然素材ということでよく利用されている。なお、現地の対策は流れの方向に対して、竹粗朶を縦向きにおいてあるが、本来は流れの方向に対して横向き(直角)において泥を濾すというのが正しいやり方である。今の置き方で効果が低いようであれば改善してほしい。(野田)
 - ▶ 矢作川には竹が多く分布しており、一度、豊田市内のNPO 団体に竹粗朶を作成してもらうようお願いしたが、伐採等に長い時間と多くの労力が必要となることがわかった。実状は外国産の竹を入手する方が簡単で安価にできる。ただし、外来生物が付着したりしている恐れがあることに注意して使用する必要がある。(野田)
- ・新設のコンクリート構造体は水に浸されないのでアルカリ成分が除去できないのではないかと。実際、供用する前に排水のpH 管理を実施してもらいたい。(本守)
 - ▶ 1年間、風雨にさらされるので少しはアルカリ成分が抜けるものと想定している。盛土の中に溜まった水はpH濃度を計測して、場合によっては中和調整した処理水を放流する計画である。(豊田加茂)
- ・魚の滞留場として深場をつくることになっているが、その水深は概ねどの程度か?(光岡)
 - ▶ 深いところで2m程度は確保できると考えている。(豊田加茂)
- ・この工事が完了したとしても、今の樋門の構造だと遊水池とひょうたん池の水位(段差)は解消されないため、ひょうたん池に魚は移動することはできないのではないかと。(本守)
 - ▶ 洪水時に遊水池とひょうたん池を行き来することはできるが、平常時は困難である。この対策を農林事務所の事業で実施することは困難であり、根本的に解決するには樋門管理者へ要望するしかない。(本守)
 - ▶ この件は樋門の管理者である豊田市との協議が必要であり、今後ワーキングへの参加を要望したい。(内田)



(2) 振り返り

よかったと思うこと：現況を見て、現地に即した内容について議論することができた。/雨天休工であったため、施工音もなく、現場状態を施工境界から観察するにはよかった。/農林事務所の対策が川部会の議論の結果に協力的で建設的な方向に進んできた。

よくなかったと思うこと：阿部夏丸さんに出席してほしかった。/現場に近づきたかったので、ヘルメットの準備をしてほしかった。

今後取り組んでいきたい活動など：外部に発信できる活動をしたい。/これまでの課題についての話し合い、取組、成果、今後の予定や課題などを表に整理してみるとわかりやすいと思う。

今後の流域圏懇談会の予定



■第40回川部会WG

※詳細日時はMLにて決定します。

日時：平成29年7月18日(火)15:00～ 場所：豊田市職員会館

内容：〈地先モデル〉①「山村再生担い手づくり事例集(山部会WG)」について

②「問わず語り」から見る矢作川の“けしき” 一関係性を築く聴き方について—



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 調査課 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

